

05. 広島県三原市における茅葺き民家の保存実態に関する研究

1010920035 上山恵里佳
指導教員 市川尚紀 准教授

茅葺き民家 保存実態 伝統民家

1. 背景と目的

縄文時代に人々が定住居に住むようになり、屋根材料として最初に使用されたのが茅である。茅は、家の材料の原点と言ってもよい。茅葺き屋根は世界各国に存在しており、近年ヨーロッパを中心にブームとなっている。理由は、自然を愛好するヨーロッパ人ならではの生活志向に向いていることや、形が変わっていること、また富裕層のシンボルとされている。しかし、近年日本では茅葺き屋根の民家は急激に減少しており、県内では人が暮らす茅葺き民家はわずかである。

本研究では、広島県三原市における茅葺き民家の保存実態を把握し、茅葺き職人の減少、葺き替え費用など茅葺き民家の減少理由を把握する。また、坂東¹ (H22 年度)、大本² (H24 年度) の調査結果と比較を行い、地域性の相違点を明確にする。なお、三原市は 2005 年 3 月に三原市と、大和町、**写真 1** 茅葺き民家 (No. 5) 本郷町、久井町が合併した。



2. 調査の方法

(1) 調査対象：西中国茅葺き民家保存研究会が 2014 年時点で確認している広島県三原市の茅葺き民家 21 戸を対象とする。また対象民家全ての調査中に新たに民家を発見した場合はそれも追加する。

(2) フィールド調査：外観を撮影し、「屋根の形状」「屋根形式」「使用用途」「敷地内建物の有無」「その他備考」「空き家か否か」を記録する。そして、現存する民家の分布図を作成する。

(3) ヒヤリング調査：空き家を除いた民家を対象に、「良いところ、悪いところ」「屋根を葺き替えている職人」「葺き替え費用」「葺き替えて何年か」「屋根の被覆を考えているか」などについてヒヤリングを行う。

3. フィールド調査結果

(1) 現存民家の分布

2002 年の、西中国茅葺き民家保存研究会調査による三

原市の茅葺き民家は 48 戸であったが、今回の調査結果では現存する民家 21 戸、調査中に新たに発見した民家が 3 戸、計 24 戸であり、12 年間で茅葺き民家の戸数は半減していた。

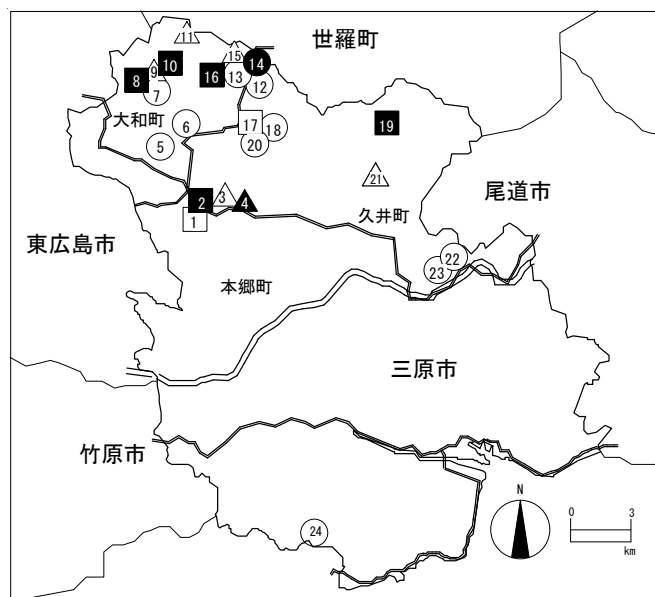


図 1 現存民家の分布図

(2) 茅葺き民家の保存実態

フィールド調査の結果、現存している茅葺き民家 24 戸のうち屋根の状態が「良」の民家が 17 戸、「悪」の民家が 7 戸であった。また茅葺き民家は三原市北西部の大和町に集中していた (図 1)。

屋根の状態が「良」の民家 17 戸のうち、母屋の民家が 11 戸、屋根の状態が「悪」の民家 7 戸のうち使用用途が母屋の民家は 1 戸であった。屋根の状態が「良」の民家で空き家は 2 戸、屋根の状態が「悪」の民家で空き家は 5 戸であった。つまり、空き家となっている民家、5+2=7/24 戸が近い将来なくなる可能性が高い。なお、「その他」とは、離れ、別荘として使用されているものを指すが、三原市は、お寺の本堂として使用されているものが 3/5 戸あり、いずれも屋根の状態は「良」であった。

表 1 フィールド調査結果

	屋根状態	使用用途	戸数	箱棟	入母屋	同じ敷地内に他の建物がある民家
○タイプ1	良	母屋	10	5	5	6
□タイプ2		空き家	2	1	1	1
△タイプ3		その他	5	5	0	5
●タイプ4	悪	母屋	1	0	1	1
■タイプ5		空き家	5	2	3	1
▲タイプ6		その他	1	1	0	1

4. ヒヤリング調査結果

現存している茅葺き民家 24 戸のうち、空き家を除いた 17 戸を訪問し、そのうち 13 戸の民家にヒヤリングすることができた。ヒヤリング内容と回答を表 2 に示す。

表 2 ヒヤリング内容と回答

内容	回答 () は民家No
茅葺き屋根の良いところ	<ul style="list-style-type: none"> 夏涼しい1 (3, 4, 5, 6, 11, 12, 13, 15, 20, 22, 24) 冬暖かい5 (4, 11, 13, 15, 20) 昔風で落ち着いている1 (13) 天井が高く涼しい1 (5) エコロジーである1 (3) 素敵 1 (22)
悪いところ	<ul style="list-style-type: none"> 茅葺き屋根職人不足6 (4, 5, 6, 15, 22, 24) 雨漏り5 (3, 5, 11, 12, 22) お金がかかる5 (3, 13, 15, 20, 24) 冬寒い4 (6, 11, 12, 24) 材料不足4 (5, 13, 15, 24) 腐みが早い4 (3, 4, 13, 15) 茅刈り職人不足3 (3, 6, 20) 虫がわく1 (15)
屋根を葺いてもらっている職人	<ul style="list-style-type: none"> 清水氏8 (3, 4, 5, 6, 12, 22) 藤川氏 1 (3) 神元氏1 (24) 北広島町の方1 (15) 不明 3 (11, 13, 18)
1回の葺き替え費用	<ul style="list-style-type: none"> 片面50万 (30年前) (4) 全体300万 (5) 小さい面50万 大きい面100万 (12) 1面200~300万 (22) お寺の覆る面のみで800万円 (12) お寺全体で1000万円 (3) 日当1~2万円1 (15) 2万円2 (20, 22) 2~3万1 (24) 不明 4 (6, 11, 13, 18)
築何年	<ul style="list-style-type: none"> 60~80年6 (4, 11, 12, 13, 22, 24) 81~100年2 (5, 20) 120~150年1 (15) 260年1 (3) 不明2 (6, 18)
葺き替えて何年	<ul style="list-style-type: none"> 0~5年2 (15, 24) 6~10年2 (5, 20) 11~20年4 (3, 6, 12, 13) 21~30年2 (4, 22) 不明3 (4, 11, 18)
今後被覆したいと考えているか	<ul style="list-style-type: none"> 考えている1 (13) 考えていない7 (3, 4, 5, 15, 20, 22, 24) 悩み中1 (12) 潰す2 (11, 14) 不明2 (6, 18)
なぜ被覆したいか	<ul style="list-style-type: none"> お金がかかる1 (13) トタン屋さんに来てすすめられた1 (13)

(1) 屋根を葺いてもらっている職人

「屋根を葺いてもらっている職人は誰か」という質問に対して、三原市大和町の茅葺き屋根職人 S 氏が 6/13 戸と多く挙げられた。S 氏は三原氏唯一の茅葺き屋根職人であったが、3 年前の逝去により三原氏の民家は、定期的な屋根の葺き替えが不可能になった。

(2) 葺き替え費用

ヒヤリングできた民家の葺き替え費用は約 50~300 万円であった。また、寺の場合は屋根全体で 1000 万円や 1 面 800 万円かかることがわかった。なおこの費用は、1、2 面の葺き替え費用である。民家毎によって葺き替えの時期、費用はその時の時代や物価、屋根の面積により変わってくる。

(3) 今後の保存について

屋根の被覆をしたいと考えている民家は 1 戸と少なく、「茅葺き屋根はお金がかかる」「トタン屋さんが来てすすめられた」という意見が聞かれた。13 戸のうち「今後も保存する」民家が 7 戸、「被覆を考えている」民家が 1 戸、「解体する」という民家が 2 戸、検討中の民家が 3 戸であった。今後も茅葺き民家は徐々に消滅していく可能性が高いと考えられる。

5. 三原市と東広島市・熊野町の比較

広島県三原市と東広島市、熊野町の茅葺き民家のフィールド調査結果を比較する。ただし、東広島市の屋根を被覆している民家のデータは比較対象外とする。

(1) 茅葺き民家の密度

茅葺き民家が多く現存する地域の茅葺き民家の密度を比較した結果、三原市大和町は 122k m²/18 戸=6.77k m²/戸、東広島市志和町は 4.57k m²/戸、熊野町は 1.02k m²/戸となる。したがって、茅葺き民家の密度は三原市大和町が最も低く、熊野町の 1/7 であった。

(2) 茅葺き民家の悪いところ

「茅葺き屋根の悪いところ」に対する回答に関し、熊野町では、「特になし」という回答が半数を占めていたが三原市では、「お金がかかる」「職人不足」「材料不足」などの維持に関する回答が多くあがった。

(3) 茅葺き屋根の葺き替え費用

屋根の葺き替え費用で「分からない」という回答を除いた 10 戸のうち、屋根の葺き替え費用 300 万円以下が 8 戸で、割合にすると 80%である。東広島市の場合は 64%、熊野町は 80%であるのに対し、三原市は屋根の葺き替えに 300 万円以上かかるのは寺であり、民家のみであれば全戸が 300 万円以下であった。

6. まとめ

広島県三原市は、東広島・熊野町よりも茅葺き民家の消滅が進んでいく可能性が高いことが分かった。茅葺き民家の住人も屋根の維持管理は大変だと考えている中、市内唯一の茅葺き職人がいなくなったことが大きく影響しており、茅葺き民家全 24 戸の内 10 戸は、今後消滅する可能性が高い。

参考文献：1)坂東孝：東広島市における茅葺き民家保存・消滅実態とその要因に関する研究，平成 22 年近畿大学工学部建築学科卒業論文
2)大本浩：広島県熊野町における茅葺き民家の保存に関する研究，平成 24 年度近畿大学工学部建築学科卒業論文